

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成31年度採択）

F S（実行可能性調査）評価結果（公表用／ハード分野）

番号	F S 研究名	研究代表者	評 価
31-8	IoT と画像機械学習を活用した自動車荷重実態の簡易把握技術の開発	東京大学大学院 准教授 長山 智則	D
<p><研究の概要></p> <p>IoT と画像機械学習技術を活用して、路面・ジョイント・床版に作用する静的および動的な自動車荷重を、広域に簡易に把握・評価する技術を開発し、高速道路や一般道の橋梁・路線で実証する。</p> <p><FS評価結果></p> <p>FS 研究では道路管理者へのヒアリングにより簡易 BWIM の利活用の可能性を整理しているものの、実務での活用を想定した具体的な提案など全体の研究成果の見通しが不透明であり、現場ニーズにマッチした成果を実装していく道筋が十分に示されていないことから、不採択とする。</p> <p><特記事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本課題の FS 採択にあたっては、「把握情報がニーズを満たす見込みがあるのか事前に確認しておく必要がある。」と評価した上で、本採択に向けた条件として「研究成果の実務での利用可能性を明確化すること」を求めていたところであるが、FS 研究の結果、現場のニーズとマッチした利活用の方法とそれに向けた道筋が十分に示されていない。 2. また、伸縮装置の実態荷重評価や損傷検知への適用についても、実務への利用可能性が十分に明確化できてなく、このまま研究を進めても実務で活用される可能性は期待できない。 			

※本 F S 評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 39 回新道路技術会議において審議したものである。